

(案)

イソチアニル 農薬蜜蜂影響評価書

2023年12月26日

農業資材審議会農薬分科会
農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（別添参照）	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	9
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	9
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	10
3. 花粉・花蜜残留試験	13
4. 蜂群への影響試験	13
III. 毒性指標	14
1. 毒性試験の結果概要	14
2. 毒性指標値	14
3. 毒性の強さから付される注意事項	14
IV. 暴露量の推計	15
V. 評価結果	15
評価資料	15
評価資料（公表文献）	15

<経緯>

令和 4 年 (2022年) 12 月 14 日	農業資材審議会への諮問
令和 5 年 (2023年) 8 月 24 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会（第10回） 国民からの意見・情報の募集
令和 5 年 (2023年) 9 月 25 日 から10 月 24 日	
令和 5 年 (2023年) 12 月 26 日	農業資材審議会農薬分科会 農薬蜜蜂影響評価部会（第11回）

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 10 回、第 11 回）

(委員)

五箇 公一

與語 靖洋

(臨時委員)

山本 幸洋

(専門委員)

稻生 圭哉

永井 孝志

中村 純

横井 智之

イソチアニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

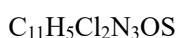
- 1.1 申請者 住友化学株式会社
1.2 登録名 イソチアニル
3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサリド
1.3 一般名 isotianil (ISO 名)
1.4 化学名
IUPAC名 : 3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide

CAS名 : 3,4-dichloro-N-(2-cyanophenyl)-5-isothiazolecarboxamide
(CAS No. 224049-04-1)

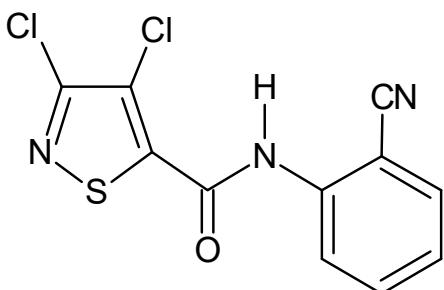
- 1.5 コード番号 BYF01047, S-2310

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式



構造式



分子量

298.15

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状	98.8	目視	白色・固体(粉末)
臭気	98.8	官能法	わずかな芳香臭
融点	98.8	OECD 102	193.7~195.1°C
沸点	98.8	OECD 103	測定不能(372°C付近で分解)
密度	98.8	OECD109	1.11 g/cm ³ (20°C)
蒸気圧	99.5	OECD 104	<8.7 × 10 ⁻⁹ Pa (35°C)
熱安定性	98.8	OECD 113	282°Cまで安定
水	99.5	OECD 105	0.50 mg/L (20°C)
ヘキサン	98.8	OECD 105	0.0594 g/L (20°C)
トルエン			6.87 g/L (20°C)
ジクロロメタン			16.6 g/L (20°C)
アセトン			4.96 g/L (20°C)
メタノール			0.775 g/L (20°C)
酢酸エチル			3.62 g/L (20°C)
解離定数 (pK _a)	99.5	OECD 112	8.92 (20°C)
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})	99.5	OECD 107	2.96(25°C、pH 7.2)
加水分解性	>99	OECD 111	半減期 60.8~71.4 日(25°C、pH 7)
水中光分解性	>99	12農産第8147号	半減期2.2日 (pH6.5滅菌蒸留水、25°C、27.95 W/m ² 、300~400 nm)

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果		
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル	98.8		極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)
			中性(メタノール)		
			279	0.684	10200
			酸性(pH0.8)		
			279	0.668	9950
			アルカリ性(pH13.3)		
			266	0.701	10500
試験項目		試験方法	試験結果		
土壌吸着係数		OECD106	$K^{ads,Foc}$: 497~1596(4種類の国内土壌)		
土壌残留性		記載なし	粒剤、水田土壌(2種類)：半減期 0.5~13日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)		
		30消安第6278号	水和剤、畑地土壌(2種類)： 半減期 4.9~7.4日(土壌の深さ0~10 cm、FOMCモデルによる推定値) 半減期 4.5~7.1日(土壌の深さ0~20 cm、FOMCモデルによる推定値)		

3. 申請に係る情報

中国、韓国、豪州等で登録されている。

4. 作用機作

イソチアゾール環を持つ殺菌剤である。病原菌に対する直接的な作用はなく、植物病害抵抗性関連酵素の作用を亢進させる。(FRAC分類:P3*)

※参照：<https://www.frac.info/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（54 製剤、別添参考）

- ・スタウトダントツ箱粒剤及びボクシー粒剤
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトダントツ箱粒剤 0.8 及びツインターボ箱粒剤 0.8
(クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチン粒剤及びクミアイルーチン粒剤
(イソチアニル 3.0%粒剤)
- ・ルーチンアドマイヤー箱粒剤及びクミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンアドスピノ箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンアドスピノ G T 箱粒剤及びシャリオ箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤)
- ・ルーチンバリアード箱粒剤
(チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ツインターボフェルテラ箱粒剤
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチントレス箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱いり娘粒剤及びボクシーWR 粒剤
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・スタウト顆粒水和剤
(イソチアニル 40.0%水和剤)
- ・ルーチンフロアブル
(イソチアニル 18.3%水和剤)
- ・サイクルヒット箱粒剤及びフルターボ箱粒剤
(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)
- ・スタウトダントツ顆粒水和剤及びツインターボ顆粒水和剤
(クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)
- ・エバーゴルフォルテ箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・エバーゴルワイド箱粒剤及びエバーゴルプラス箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

- ・箱王子粒剤
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディート箱粒剤、ルーチンデュオ箱粒剤、ツインパディート箱粒剤及びルーチンパンチ箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ボクシーS P粒剤
(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンエキスパート箱粒剤
(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スタウトパディートDX箱粒剤
(クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱大臣粒剤
(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトビル 4.0%粒剤)
- ・ハコナイト粒剤
(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンブライト箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・スクラム箱粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・防人箱粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・箱維新粒剤及び箱將軍粒剤
(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトビル 4.0%粒剤)
- ・フルスロットル箱粒剤
(シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ルーチンコア箱粒剤
(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ルーチンシードF S
(イソチアニル 41.7%水和剤)
- ・ヨーバルトップ箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ミネクトブラスター顆粒水和剤
(シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

- ・ヨーバルパワーEV箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ヨーバルプライムEV箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)
- ・ヨーバルUG箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・スタウトアレス箱粒剤及び稻名人箱粒剤
(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)
- ・ミネクトフォルスターSC
(シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)
- ・スタウトアレスモンガレス箱粒剤及び稻大将箱粒剤
(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)
- ・レアフロアブル
(イソチアニル 18.3%水和剤)

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

イソチアニルのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		1	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

* (参考) 公表文献の検索結果

(生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野)

データベース名: Web of Science (Core Collection)、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index、SciELO Citation Index及びJ-STAGE

検索対象期間: 2006年7月1日から2021年6月30日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	42
-----------------------------------	----

↓ 【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】
明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性なし」以外の文献数	9
---------------	---

↓ 【全文に基づく適合性の有無の評価】
評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	0
-------------	---

↓ 【適合性の分類】
分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を
a、b、c の3つの区分に分類
 (区分a; リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献)
 (区分b; リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献)
 (区分c; a又はbに分類されない文献)

「区分a」及び「区分b」に分類された文献数	a	b
0	0	0

↓ 試験生物として「セイヨウミツバチ (*Apis mellifera*)」
を用いている

審議の対象とする文献数	a	b
0	0	0

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀は >100 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 214(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶媒(投与液量)	アセトン(5µL)		
暴露量 (設定量に基づく有効成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0%)	0/50 (0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai /bee) (48 h)	>100		

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >108.8 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 1、2012 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD 213(1998)		
試験期間	48 h		
投与溶液(投与液量)	シュガーシロップ (100~200 mg/区)		
助剤(濃度%)	アセトン(5%)		
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	108.8
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/50 (0.0%)	0/50 (0.0%)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>108.8		

2.3 成虫反復経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、10 d LDD₅₀ は>4.20 µg ai/bee/day であった。

表 4：反復経口毒性試験結果（資料 2、2016 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 4反復、10頭/区						
準拠ガイドライン	KLING, A. and SCHMITZER, S. (2015) 及びOECD TG(草案)						
試験期間	10 d						
投与溶液	50%ショ糖溶液						
助剤(濃度%)	アセトン(5 %)+Tween80 (1 %)+キサンタン(0.1%)						
暴露量 (実測値(摂餌量による補正值)に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee/day)	対照区 (死亡率 %)	助剤 対照区 (死亡率 %)	0.70	1.18	1.66	2.27	4.20
死亡数/供試生物数 (10 d)	1/40 (2.5%)	2/40 (5.0%)	3/40	2/40	1/40	1/40	3/40
観察された行動異常	運動障害						
LDD ₅₀ (µg ai/bee/day) (10 d)	>4.20						

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 5 に示す。

表 5 : 各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エンド ^o ポ ^o イント	試験1
成虫単回接触毒性	48 h LD ₅₀	>100 µg ai/bee
成虫単回経口毒性	48 h LD ₅₀	>108.8 µg ai/bee
成虫反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	>4.20 µg ai/bee/day

2. 毒性指標値

成虫単回接触毒性については、48 h LD₅₀ 値 (>100 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫単回経口毒性については、48 h LD₅₀ 値 (>108.8 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

成虫反復経口毒性については、10 d LDD₅₀ 値 (>4.20 µg ai/bee/day) を採用し、毒性指標値を 4.2 µg ai/bee/day とした。

イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値を表 6 に示す。

表 6 : イソチアニルのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100
	単回経口毒性	48 h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀ (µg ai/bee/day)	4.2

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性（単回接触毒性試験の LD₅₀ 値）が 11 µg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ : >108.8 µg/bee、成虫反復経口毒性試験 LDD₅₀ : >4.20 µg/bee/day）であることから、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

イソチアニルは、申請された適用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
1	2012	Effects of isotianil tech. (Acute Contact and Oral) on Honey Bees (<i>Apis mellifera</i> L.) in the Laboratory IBACON GmbH Report No.: RKW-0029 GLP、未公表	住友化学(株)
2	2016	Isotianil - Assessment of Effects on the Adult Honey Bee, <i>Apis mellifera</i> L., in a 10 Day Chronic Feeding Test under Laboratory Conditions Eurofins Agroscience Services Report No.: RKW-0065 GLP、未公表	住友化学(株)

評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（イソチアニル）

目 次

1. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤、 登録番号 23618 : ボクシー粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)	4
2. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤 0.8、 登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤 0.8 (クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)	8
3. 登録番号 22701 : ルーチン粒剤、 登録番号 22702 : クミアイルーチン粒剤 (イソチアニル 3.0%粒剤)	10
4. 登録番号 22703 : ルーチンアドマイヤー箱粒剤、 登録番号 22704 : クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	11
5. 登録番号 22705 : ルーチンアドスピノ箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	12
6. 登録番号 22706 : ルーチンアドスピノ G T 箱粒剤、 登録番号 23039 : シャリオ箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤)	13
7. 登録番号 22707 : ルーチンバリアード箱粒剤 (チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)	14
8. 登録番号 22708 : ツインター ボフェルテラ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	15
9. 登録番号 22915 : ルーチントレス箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	16
10. 登録番号 23033 : 箱いり娘粒剤、 登録番号 23755 : ボクシーWR 粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトビル 4.0%粒剤)	17
11. 登録番号 23186 : スタウト顆粒水和剤 (イソチアニル 40.0%水和剤)	20
12. 登録番号 23195 : ルーチンフロアブル (イソチアニル 18.3%水和剤)	21

1 3. 登録番号 23204 : サイクルヒット箱粒剤、 登録番号 23205 : フルターボ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	21
1 4. 登録番号 23206 : スタウトダントツ顆粒水和剤、 登録番号 23207 : ツインター ボ 頸粒水和剤 (クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)	22
1 5. 登録番号 23458 : エバーゴルフォルテ箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ベンフルフェン 2.0%粒剤)	23
1 6. 登録番号 23459 : エバーゴルワイド箱粒剤、 登録番号 23627 : エバーゴルプラス箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ベンフルフェン 2.0%粒剤)	24
1 7. 登録番号 23511 : 箱王子粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)	25
1 8. 登録番号 23570 : スタウトパディート箱粒剤、 登録番号 23571 : ルーチンデュオ箱粒剤、 登録番号 23621 : ツインパディート箱粒剤、 登録番号 23622 : ルーチンパンチ箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	27
1 9. 登録番号 23612 : ボクシー S P 粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)	29
2 0. 登録番号 23634 : ルーチンエキスパート箱粒剤 (イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ベンフルフェン 2.0%粒剤)	31
2 1. 登録番号 23773 : スタウトパディート D X 箱粒剤 (クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	32
2 2. 登録番号 23890 : 箱大臣粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	34
2 3. 登録番号 24027 : ハコナイト粒剤 (クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	35
2 4. 登録番号 24029 : ルーチンブライト箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ベンフルフェン 2.0%粒剤)	36
2 5. 登録番号 24128 : スクラム箱粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ベンフルフェン 2.0%粒剤)	37
2 6. 登録番号 24129 : 防人箱粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾビリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤) ..	38

2 7. 登録番号 24130 : 箱維新粒剤、 登録番号 24131 : 箱將軍粒剤 (クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメ トピル 4.0%粒剤)	39
2 8. 登録番号 24132 : フルスロットル箱粒剤 (シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフル フェン 2.0%粒剤)	40
2 9. 登録番号 24158 : ルーチンコア箱粒剤 (チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)	41
3 0. 登録番号 24194 : ルーチンシード F S (イソチアニル 41.7%水和剤)	42
3 1. 登録番号 24319 : ヨーバルトップ箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)	43
3 2. 登録番号 24473 : ミネクトブラスター顆粒水和剤 シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)	44
3 3. 登録番号 24474 : ヨーバルパワー E V箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒 剤)	45
3 4. 登録番号 24475 : ヨーバルプライム E V箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)	46
3 5. 登録番号 24476 : ヨーバル U G箱粒剤 (テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	47
3 6. 登録番号 24514 : スタウトアレス箱粒剤、 登録番号 24516 : 稲名人箱粒剤 (オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	48
3 7. 登録番号 24597 : ミネクトフォルスター S C (シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)	49
3 8. 登録番号 24615 : スタウトアレスモンガレス箱粒剤、 登録番号 24616 : 稲大将箱粒剤 (オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)	50
3 9. 登録番号 一※ : レアフロアブル (イソチアニル 18.3%水和剤)	51

※新規登録申請中

1. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤、
 登録番号 23618 : ボクシー粒剤
 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

(1) スタウトダントツ箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 内穎褐変病 イネビゾウムシ イブロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコハメイ フタオビコヤガ ニカメイケウ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1箱当り 50 g 高密度には種 する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壤約5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種前	1回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4回以内(移植 時までの処理 は1回以内、本 田での散布、 空中散布、無 人航空機散布 は合計3回以 内)	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、本 田では2回以 内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 内穎褐変病 イネビゾウムシ イブロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコハメイ フタオビコヤガ ニカメイケウ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1箱当り 50 g 高密度には種 する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壤約5 L)1 箱当り 50~100 g)					
	苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1箱当り 50 g 高密度には種 する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壤約5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時 (覆土 前)		育苗箱 の上か ら均 一に散 布す る。		

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアニジンを含む農薬の総使用回数	イリチアニルを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 イネミズモウムシ イネコロイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
湛水直播水稻	いもち病 イネミズモウムシ イネコロイムシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

(2) ボクシー粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアニジンを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 内穎褐変病 イネビズモウムシ イネドロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバエ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イヌヒメモグリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種前	1回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	4回以内(移植 時までの処理 は1回以内、本 田での散布、 空中散布、無 人航空機散布 は合計3回以 内)	3回以内(移植 時までの処理 は1回以内、本 田では2回以 内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 内穎褐変病 イネビズモウムシ イネドロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバエ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イヌヒメモグリバエ		は種時 (覆土 前)～移 植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
	苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時 (覆土 前)				
稻	いもち病 イネビズモウムシ イネドロイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播 での場合は種時又 は移植時まで の処理は1回以 内、本田での散 布、空中散布、 無人航空機散 布は合計3回以 内)	3回以内(直播 での場合は種時又 は移植時まで の処理は1回以 内、本田では2 回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアニジンを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズリウムシ イヌコロイムシ		は種時		は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

2. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤 0.8 %

登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤 0.8 %

(クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数		
湛水直播水稻	いもち病 イネミズリーウムシ イヌコロイムシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)		
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズリーウムシ イヌコロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イヌヒメモギリバ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50~100 g)							
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50~100 g)							
	イヌコロイムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g	移植当日						
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50~100 g)							

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	イリチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。		
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時(覆土前)			4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)					
稻	いもち病 イネミズツウムシ イヌゴトムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

3. 登録番号 22701：ルーチン粒剤、

登録番号 22702：クミアイルーチン粒剤

(イソチアニル 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たり 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)				育苗箱の床土に均一に混和する。		
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆土前)		育苗箱の覆土に均一に混和する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病				育苗箱の上から均一に散布する。		
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時(覆土前)~移植当日				
稻	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1 kg/10 a	収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	3回以内(直播での処理は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	

4. 登録番号 22703 : ルーチンアドマイヤー箱粒剤、

登録番号 22704 : クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤

(イミダクロプロピド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプロピドを含む農薬の総使用回数	イチアニルを含む農薬の総使用回数	
稻 (箱育苗)	内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L) 1 箱当たり 50 g	移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3 回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
	白葉枯病 もみ枯細菌病		は種時(覆土前)～移植当日		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。			
	いもち病 イネメモギリバエ イネズツウムシ イネコロイムシ ツマグロヨコバエ ウカ類		は種前		育苗箱の上から均一に散布する。			
	イネアザミウマ		は種時(覆土前)～移植当日		育苗箱の床土に均一に混和する。			
			は種前		育苗箱の床土に均一に混和する。			

5. 登録番号 22705 : ルーチンアドスピノ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数						
稲 (箱育苗)	イネアザミウマ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	移植 2 日前～移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)						
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日											
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)											
	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズツウムシ イヌコウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ イネツトムシ フタオビコヤガ コブノメイガ ニカメイチュウ いもち病		は種時(覆土前)～移植当日											
	イネミズツウムシ イヌコウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ イネツトムシ フタオビコヤガ コブノメイガ ニカメイチュウ いもち病		は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)								
	イネアザミウマ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)	移植 2 日前～移植当日	1 回										
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日											
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)											

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イヌヒヨウイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イヌヒメモグリバエ イネトトシ フタオビコヤガ コブノメイカ ニカメイチュウ いもち病	高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当り50~100g)	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

6. 登録番号 22706 : ルーチンアドスピノGT箱粒剤、

登録番号 23039 : シャリオ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	イネトトシ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ イヌヒヨウイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイカ フタオビコヤガ いもち病 紋枯病 白葉枯病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L) 1箱当り 50 g	移植 2日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病		移植当日						

7. 登録番号 22707 : ルーチンバリアード箱粒剤
 (チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3回以内(移 植時までの 処理は1回 以内、本田 では2回以 内)
	白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆 土前)~移 植当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌 病菌)		は種時(覆 土前)				
	もみ枯細菌病		移植当日				

8. 登録番号 22708 : ツインター・ボフェルテラ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数		
稻 (箱育苗)	いもち病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) 白葉枯病 イネミズツウムシ イネトコイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバエ ニカメイコウ フタオヒコヤカ イネツムシ コブノメハエ 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時 (覆土前)~移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以内、 本田で の散布、 空中散 布、無人 ヘリ散 布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時 までの 処理は 1 回以内、 本田で は 2 回 以内)		
	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)								
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)			育苗箱の 床土に均 一に混和 する。				
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病					育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。				
	穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種前			育苗箱の 床土に均 一に混和 する。				
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病					育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。				

9. 登録番号 22915 : ルーチントレス箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) イネアザミウマ イネツムシ ツマグロヨコバエ ウンカ類 イネヒメハモグリバエ イネミズゾウムシ イヌヒメイムシ コブノメイガ ニカメイチュウ ワタキビコヤカ いもち病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯 細菌病菌) 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種前 は種時 (覆土前)～ 移植当日 は種時 (覆土前) 移植当日	1 回	育苗箱の床 土又は覆土 に均一に混 和する。 育苗箱の上 から均一に 散布する。	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)

10. 登録番号 23033 : 箱入り娘粒剤、

登録番号 23755 : ボクシーWR粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

(1) 箱入り娘粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 紋枯病 イネモウイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直 播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネモウイムシ ニカメイチュウ フタオセコヤカ イネツトムシ キリウジガガシンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	スピネラムを含む農薬の総使用回数	イソアニルを含む農薬の総使用回数	フルオロピルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ フタオヒコヤガ イネミズゾウムシ イヌヒオイムシ イネットムシ ニカメイ子ウ イヌヒメハモクリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

(2) ボクシーWR 粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	スピロカルボン酸を含む農薬の総使用回数	イソアニルを含む農薬の総使用回数	フルオロカルボン酸を含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネトロイムシ ニカメイチュウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネトロイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤカ イネツトムシ キリウジガガシボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稻(箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) ウンカ類 ツマグロヨコハメ コブノメイカ フタオビコヤカ イネミズゾウムシ イネトロイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

1 1. 登録番号 23186：スタウト顆粒水和剤

(イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数							
稻 (箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 白葉枯病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前～移植 当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの 処理は 1 回 以内、本田 では 2 回以 内)							
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釗倍 数 100~200 倍))												
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 1000 mL											
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釗倍 数 200~400 倍))												
	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌)	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆 土前										
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釗倍 数 100~200 倍))												
		400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 1000 mL											
		高密度には種する 場合は 50 g/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱 当り 2.5~5 g(希釗倍 数 200~400 倍))												

12. 登録番号 23195 : ルーチンフロアブル

(イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	75~100 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 0.5 L	移植 3 日前~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	もみ枯細菌病	75 倍					
稻	いもち病	原液	100 mL/10 a	移植時		ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

13. 登録番号 23204 : サイクルヒット箱粒剤、

登録番号 23205 : フルターボ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウカ類 ツマゴヨコバエ イネミズゾウムシ イネドモイムシ ニカメイチョウ イネットムシ フタオビコヤカ イネヒメハモグリバエ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内(移植時までの処理は 1 回以内)
	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)								

14. 登録番号 23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、

登録番号 23207：ツインターボ顆粒水和剤

(クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使 用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農 薬の総使用回数	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
稻	いもち病 イネコロイムシ イネミズゾウムシ	100 g/10 a	移植時	1回	ペースト肥料 に混合し 側条施肥 田植機で 施用する。	4回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は1回 以内、本田での散 布、空中散布、無人 航空機散布は合計3 回以内)	3回以内(直播 でのは種時又 は移植時まで の処理は1回 以内、本田で は2回以内)

作物名	適用 病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロチアニジンを 含む農薬の 総使用回数	イソチアニルを含 む農薬の総 使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 イネコロイムシ イネミズゾウムシ	100 倍 高密度には種 する場合は 100g/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 500 mL)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 500 mL	移植 3 日 前～ 移植 当日	1回	灌注	4回以内(移 植時まで の処理は1回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は 合計3回以 内)	3回以内(移 植時まで の処理は1回 以内、本田で は2回以内)

15. 登録番号 23458 : エバーゴルフォルテ箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いネズミゾウムシ イヌコロイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病 白葉枯病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 白葉枯病 いネズミゾウムシ イヌコロイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱 当り50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約5 L)1箱 当り50~100 g)	は種前 は種時 (覆土前)~移植当日 移植当日 移植3日前~移植当日	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。 育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回

16. 登録番号 23459 : エバーゴルワイド箱粒剤、

登録番号 23627 : エバーゴルプラス箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル

2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L)1箱 当たり 50 g	は種時 (覆土前)~ 移植当日	1回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内(移 植時まで の処理は1 回以内、 本田での 散布は2回 以内)	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田では2 回以内)	1回
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						
	イブ、オイム イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコハメ ニカメチュウ コブノメイカ イネツトムシ フタオビコヤカ いもち病 紋枯病		は種時 (覆土前)~ 移植当日						
	穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 白葉枯病 内穎褐変病		は種前						
	高密度には 種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用 土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)		移植3日 前~移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散布 する。	3回以内(移 植時まで の処理は1 回以内、 本田での 散布は2回 以内)	1回	3回以内 (移植時 までの処 理は1回 以内、本 田では2 回以内)	1回
	疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色 菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						

17. 登録番号 23511：箱王子粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロチアニジン を含む農 薬の総使 用回数	スピネトラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使 用回数						
湛水直 播水稻	いもち病 イネミズリウムシ イネトコイムシ ニカメイショウ フタオヒコヤカ イネツムシ キリウジガガソ ボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同 時施薬 機を用 いて土 中施用 する。	4回以 内(は種時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計3回以 内)	3回以 内(は種時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布は2回以 内)	3回以 内(は種時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回 以内)						
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) ウカ類 ツマグロヨコハ イ イネミズリウムシ イネトコイムシ ニカメイショウ フタオヒコヤカ コブノメイガ イネツムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計3回以 内)	3回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布は2回以 内)	3回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回 以内)						
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)												
	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移植 当日			育苗箱 の上か ら均 一に散 布する。	4回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計3回以 内)	3回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 での散 布は2回以 内)	3回以 内(移植時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回 以内)						
	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移 植当日												

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロチアニジン を含む農 薬の総使 用回数	スピネラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使 用回数	
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(も み枯細菌病 菌) 苗立枯細菌 病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布は 2 回 以内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)			育苗箱 の上か ら均 一に散 布する。				
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)						
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							

18. 登録番号 23570：スタウトパディート箱粒剤、

登録番号 23571：ルーチンデュオ箱粒剤、

登録番号 23621：ツインパディート箱粒剤、

登録番号 23622：ルーチンパンチ箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 イネズモウムシ イヌコムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネズモウムシ イヌコムシ フタオビコヤカ ニカメイケウ ツマグロヨコバイ イネツトムシ コブノメイガ 付コ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネハモゲリバエ ヒメトビウンカ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)						
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネズモウムシ イヌコムシ フタオビコヤカ ニカメイケウ ツマグロヨコバイ イネツトムシ コブノメイガ 付コ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネハモゲリバエ ヒメトビウンカ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		3回以内(移植時までの処理は1回以内、
	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアトランクリップロールを含む農薬の総使用回数	イソチアノルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ 枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する 場合は 1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時 (覆土前)	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1 回	本田では 2 回 以内)

19. 登録番号 23612 : ボクシーS P粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネツムシ イネロイムシ イネミズゾウムシ キリウジガガムボ ニカメイユウ フタオビコヤカ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稻(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネロイムシ ニカメイユウ フタオビコヤカ コブノメイカ イネツムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たり50g	は種前 は種時(覆土前)~移植当日 移植3日前~移植当日	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。 育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	イネメハモグリバエ							

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数	スピネラムを含む農薬の総使用回数	イリチニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使 用土壤 約 5 L) 1 箱当り 50 g	は種 前 は種 時(覆 土前)	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。 育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布は 2 回以内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)

20. 登録番号 23634 : ルーチンエキスパート箱粒剤

(イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イダクロプリドを含む農薬の総使用回数	スピノサドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	イネミツヅウムシ イヌコオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメハ フタバヒコヤカ ニカメイチュウ イヌトトシ いもち病 紋枯病 白葉枯病 疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) 疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移 植当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	3 回以内 (移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散 布は 2 回以 内)	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	もみ枯細菌病	高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壤 約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)	移植 3 日前~ 移植当 日						
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱 当り 50 g	移植当 日						

21. 登録番号 23773 : スタウトペディートDX箱粒剤

(クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネズモムシ イネコムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネツムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ 苗腐敗症(もみ 枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g	は種 前		育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する			
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネズモムシ イネコムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネツムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ 穂枯れ(ごま葉 枯病菌)	高密度には種する 場合は1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L)1箱 当たり 50~100 g)	は種 時(覆 土前)~ 移植 当日	1回		4回以内(移 植時までの処 理は1回以 内、本田での 散布、空中散 布、無人航空 機散布は合計 3回以内)	1回	3回以内(移 植時までの処 理は1回以 内、本田では2回 以内)
	苗腐敗症(もみ 枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壤約5L)1箱当たり 50g 高密度には種する 場合は1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5L)1箱 当たり 50~100 g)	は種 時(覆 土前)		育苗箱の 上から均 一に散布 する			
	けご類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g 高密度には種する 場合は1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L)1箱 当たり 50~100 g)	移植3 日前~ 移植 当日					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニシンを含む農薬の総使用回数	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数	イリチアニルを含む農薬の総使用回数
稻	イネミズゾウムシ イヌドウオムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内（直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）

22. 登録番号 23890：箱大臣粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稻	いもち病 紋枯病 イネミズリウムシ イヌドロイムシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズリウムシ イヌドロイムシ キリウジガガシボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズリウムシ イヌドロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオレコヤカ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50~100 g)	移植 7日前~移植 当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

2.3. 登録番号 24027 : ハコナイト粒剤

(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズリウム ツマグロヨコバディ ウンカ類 コブノメガ けゴ類 イヌトロイムシ フタオヒコヤガ ニカメイチュウ イネツムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g) 育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)	は種前 は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する 育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

24. 登録番号 24029 : ルーチンブライト箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 紋枯病 白葉枯病 内穎褐変病 イネトウムシ ニカメイコウ フタオビコヤガ コブノメイガ イネミズゾウムシ ツマグロヨコハメイ けゴ類 ヒメトビウンカ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、 本田では 2 回以内)	1 回
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌 核病菌) イネハモグリバエ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a 育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g	移植 3 日前~移植当日				
		育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	移植当日				

25. 登録番号 24128 : スクラム箱粒剤

(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ツンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ アタビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱 当たり50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L) 1箱当たり 50~100 g)	は種時覆土前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色核病菌) イネツムシ イヌコイシ イネミズゾウムシ カメイシュウ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱 当たり50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L) 1箱当たり 50~100 g)	移植3日前~移植当日						

26. 登録番号 24129：防人箱粒剤

(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネミズゾウムシ イヌトコイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ コブノメイガ フタオビコヤカ イネットムシ	育苗箱30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50~100 g) 育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日 は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)							
	いもち病 ウカ類 コブノメイガ	1 kg/10 a	移植時		側条施用			3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

27. 登録番号 24130 : 箱維新粒剤、

登録番号 24131 : 箱将軍粒剤

(クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル
2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉 枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 イネズメウムシ イネトコイムシ ウンカ類 ツマグロヨコハダ ニカメイコウ イネツムシ フタオヒコヤカ コブノメイガ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g 高密度には種する 場合は1 kg/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、 使用土壤約5 L)1箱 当たり50~100 g)	移植7 日前~ 移植当 日	1回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する	1回	1回	3回以内(移 植時までの 処理は1回 以内、本田 では2回以 内)	2回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内)

28. 登録番号 24132 : フルスロットル箱粒剤

(シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用方法	シアントラニ リプロールを 含む農薬 の総使 用回 数	トリフルメゾ ピリムを含 む農薬の 総使 用回 数	イソチアニルを 含む農薬 の総使 用回 数	ペンフルフェン を含む農 薬の総使 用回 数
稻 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトロイムシ コブノメイガ ニカメイチュウ フタオビコヤカ イネツムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、 使用土 壤約 5 L)1 箱 当たり 50~100 g)	は種時 (覆土 前)~移植 当日	1 回	育苗箱の 上から均 一に散布 する。	1 回	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) 疑似紋枯症(褐色 紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色 菌核病菌) けゴ類	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、 使用土 壤約 5 L)1 箱 当たり 50~100 g)	移植当 日						

29. 登録番号 24158 : ルーチンコア箱粒剤

(チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	イネコイムシ イネヒメハモグリバエ ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ ニカメイショウ いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯 病菌) もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種す る場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日 前~移植 当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	1 回	3 回以内(移植時 までの処理は 1 回以内、本田で は 2 回以内)

30. 登録番号 24194：ルーチンシード F S

(イソチアニル 41.7%水和剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 いもち病	乾燥種もみ 1 kg 当り原液 6~12 mL(原液 71 mL/10 a まで)	は種前	1 回	塗沫処理	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

**3 1. 登録番号 24319 : ヨーバルトップ箱粒剤
(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)**

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネトムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツムシ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ フタオビコヤカ イセコ類 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~75 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 イネトムシ ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネツムシ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ フタオビコヤカ イセコ類	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日				
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~75 g	は種時(覆土前)	移植 3 日前~移植当日	苗箱の上から均一に散布する。		
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) イセハモゲリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~75 g	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)				

32. 登録番号 24473 : ミネクトブラスター顆粒水和剤

(シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 イネトウイムシ イネミズゾウムシ ニカメイコウ イネツムシ フタオビコヤカ けゴ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	200 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	は種時 ~移植 当日	1 回	灌注	1 回	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 イネトウイムシ イネミズゾウムシ ニカメイコウ	400 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約 5 L) 1 箱 当り 1 L	は種時				
	いもち病 イネトウイムシ イネミズゾウムシ ニカメイコウ イネツムシ フタオビコヤカ けゴ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約 5 L) 1 箱当り 2.5~5 g(希釗倍数 100~200 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壤約 5 L) 1 箱 当り 0.5 L	移植 10 日前~ 移植当日				

3.3. 登録番号 24474：ヨーバルパワーEV箱粒剤

(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 イセド、オイムシ イネミズゴウムシ ニカメイチュウ コブノメガ イネツムシ フタオビコヤカ ツマグロヨコバイ イセヒメハモゲリバエ ウンカ類 けご類	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たり 50 g	は種時 (覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	高密度には種する場合は 1 kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たり 50~100 g)							
		育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5L)1箱当たり 50 g	移植 3日前~移植当日						

34. 登録番号 24475 : ヨーバルプライム EV箱粒剤

(テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 イネミズヅウムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	1 回
	いもち病 イネミズヅウムシ 紋枯病 白葉枯病 イヌヒメイムシ ニセヒメイムシ コブノメイムシ イネツトムシ フタオビコヤガ ツマグロヨコバイ イヌヒメハモグリバエ 付ゴ類	高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)	は種 時(覆 土前)~ 移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散 布する。			
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉 枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L)1 箱 当り 50 g	移植 3 日前~ 移植 当日		育苗箱の 上から均 一に散 布する。			

3.5. 登録番号 24476 : ヨーバルUG箱粒剤

(テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 イヌコイムシ イヌミズゾウムシ ニカメイチュウ コブノメイガ イネツムシ フタバコヤカ ツマグロヨコバイ イヌヒメハモグリバエ イネゴ類 ウンカ類	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	は種時 (覆土 前)~移 植当日	1 回	育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。	1 回	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌)	高密度には 種する場合 は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 50 g	移植 3 日前~移 植当日					

36. 登録番号 24514：スタウトアレス箱粒剤、

登録番号 24516：稻名人箱粒剤

(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	
稻	いもち病 イネミズソウムシ イネコロイムシ ニカメイコウ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内(直播での場合は種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
稻 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズソウムシ イネコロイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイコウ フタオヒコヤガ イネトムシ コブノメイコ けこ類 イネハマモケリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。			
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。			
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。			
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50 g	は種時(覆土前)	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約5 L)1箱当たり50~100 g)			育苗箱の上から均一に散布する。			

37. 登録番号 24597：ミネクトフォルスターSC

(シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釗倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	いもち病 イネコロイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ 紋枯病	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注	3 回以内 (移植 時まで の処理 は 1 回 以内、 本田で は 2 回 以内)	1 回	1 回
	いもち病 イネコロイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ 紋枯病	高密度には種 する場合は、 100 mL/10 a(育 苗箱(30×60×3 cm、使用土壤 約 5L) 1 箱当 り 5~10 mL(希釗 倍数 50~100 倍))	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壤約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日 前~移 植当 日	1 回	灌注			

38. 登録番号 24615 : スタウトアレスモンガレス箱粒剤、

登録番号 24616 : 稲大将箱粒剤

(オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
稻 (箱育苗)	イネミズリゾウムシ イネトロイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオヒヨウガ イネツムシ コブノメイガ イエコ類 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 紋枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回	
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)						
	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壤約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)					
稻	いもち病 紋枯病	1 kg/10 a	移植時		側条施用	3 回以内 (直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)		

39. 登録番号 ー : レアフロアブル

(イソチアニル 18.3%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釀 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
てんさい	褐斑病	400 倍	ペーパー [®] 1 冊当り 1 L(3 L/m ²)	定植 3 日前~定 植当日	1 回	灌注	1 回

「イソチアニル農薬蜜蜂影響評価書（案）」に対する意見募集の結果について（案）

1. 意見募集の概要

（1）意見募集の対象農薬

イソチアニル

（2）意見募集の周知方法

関係資料を電子政府の総合窓口（e-Gov）に掲載

（3）意見募集期間

令和5年9月25日（月）～令和5年10月24日（火）

（4）意見提出方法

- ・電子政府の総合窓口（e-Gov）
- ・郵送

（5）意見提出先

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

2. 意見募集の結果

（1）御意見提出者数

- | | |
|-------------------|----|
| ・電子政府の総合窓口（e-Gov） | 2通 |
| ・郵送 | 0通 |

（2）御意見の延べ総数

2件

(別紙)

「イソチアニル農薬蜜蜂影響評価書（案）」に対する意見・情報の募集に寄せられた意見・情報の概要及びそれに対する考え方（案）

	御意見	御意見に対する考え方
1	外国の事例を集めて一番厳しい基準に合わせてください。	<p>農薬のミツバチへの影響評価については、農薬取締法の一部を改正する法律（平成30年法律第53号）の施行に伴い、ミツバチの農薬への暴露量を考慮した評価（リスク評価）を導入し、農薬に暴露した花粉・花蜜を持ち帰った際の巣内のミツバチ（成虫及び幼虫）への影響等も考慮した様々な暴露経路を通じた蜂群全体への評価を行うこととしています。具体的な評価法については、外部有識者を構成員とする「農業資材審議会農薬分科会」及び「農薬の蜜蜂への影響評価法に関する検討会」において公開審議の上、定めております（当該評価法については、「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）別紙2「農薬のミツバチへの影響評価ガイドンス」参照）。</p> <p>なお、個別の農薬の登録にあたっては、当該評価法及び我が国において申請された使用方法等に基づき、「農薬蜜蜂影響評価部会」において、ミツバチへの影響評価に係る審議を行っているところです。</p>
2	西洋ミツバチだけが対象になっているのですが、日本ミツバチに対しては評価されないのでしょうか？	<p>農薬のミツバチへの影響評価については、農薬取締法の一部を改正する法律（平成30年法律第53号）の施行に伴い、ミツバチの農薬への暴露量を考慮した評価（リスク評価）を導入し、農薬に暴露した花粉・花蜜を持ち帰った際の巣内のミツバチ（成虫及び幼虫）への影響等も考慮した様々な暴露経路を通じた蜂群全体への評価を行うこととしています。具体的な評価法については、外部有識者を構成員とする「農業資材審議会農薬分科会」及び「農薬の蜜蜂への影響評価法に関する検討会」において公開審議の上、定めております（当該評価法については、「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）別紙2「農薬のミツバチへの影響評価ガイドンス」参照）。</p> <p>なお、個別の農薬の登録にあたっては、当該評価法及び我が国において申請された使用方法等に基づき、「農薬蜜蜂影響評価部会」において、ミツバチへの影響評価に係る審議を行っているところです。</p> <p>なお、ニホンミツバチを含む野生ハナバチ類については、陸域の生活環境動植物として、環境省が影響評価を行っています。</p>